

# 稲刈り体験

塾生のモコです。こんにちは。

8月下旬から、色川地区では稲刈りが始まりました。昔は今よりも遅く10月頃が稲刈りの季節だったそうですが、最近ではイノシシ・鹿・猿の被害が深刻であるため、時期が早まったそうです。とはいえ、8月の作業は暑かった…。

まずは田んぼの四隅を、稲刈り用の機械が入れるように、鎌で刈ります。稲を向こう側に少し倒して、一気に刈ります。こうすると、稲の長さが揃って、後々の作業がしやすいそう。

次に、刈った稲10束ほどをわらでひとくくりにします。くくった稲は、「なる」にかけ、乾燥させます。



鎌で稲を刈っている様子



稲を束ねる作業。結び方にコツがあるそう。



「なる」に束ねた稲をかけます。



「稲こき」作業。稲を入れた反対側から、もみが出てきます。

その後、さらに「稲こき」で刈り取った稲穂からもみをとります。もみは、精米を経て、玄米や白米になります。もみを取り除いた稲は「わら」になり、田んぼの肥料や、わらぞうり作りに使われます（今では作れる人が減ってしまったそうですが、色川ではわらぞうり作りが体験できます）。

毎日食べている白米が、こんなにも手間ひまかけられたものであるとし痛感した稲刈り。一粒も無駄にせず大切に頂こうと心に誓いました。